



公立大学法人  
山口県立大学  
Yamaguchi Prefectural University

やまぐち

# 桜の森

2010.10 第6号

## 通信

山口県立大学広報誌

【特集Ⅰ】

国際交流

### 「ラップランド大学特集」

この半年の出来事

【特集Ⅱ】

### 地域貢献

～地域の小学生と過ごした夏休み～

研究室紹介

講義紹介

相談の森

学生紹介

サークル紹介

交換留学

トピックス

平成22年10月1日までの新規採用者  
キャンパススケジュール



# ▶▶▶▶ YPU New Wave

## この半年の出来事

今年4月から8月下旬までの主な出来事について、報道発表(ニュースリリース)したものを中心に紹介します。



新入生代表による入学者宣誓

**4/5** ○平成22年度入学式  
満開の桜が彩るキャンパスで、学部生351人(3年次編入学生を含む)と大学院生23人が、大学生活の1歩を踏み出しました。

### 4/15

#### ○公開講座「地域学」開講

本学で新たに開設した教養科目である「地域学」が4月15日(木)から始まりました。山口県という地域を地理、歴史、経済、政治、文学など、多様な領域から学ぶ11回分の講義と、地域課題を肌で感じることを目的として山口の各地域に足を運ぶフィールドワークが行なわれました。講義は、本学教員をはじめ、他大学・行政・各種専門機関からの様々な講師をお招きして開講され、三大学連携事業の一環として、山口東京理科大学・山口学芸大学にテレビ配信もされました。特に、二井山口県知事から「地方の自立と県民(学生)に期待すること」と題してなされた講話では、学生や地域の方々が、知事自らが語る県づくりにおける「県民力」「地域力」の重要性などについて学ぶ、貴重な機会を得、熱心に聴講しました。



二井山口県知事による公開講座



委嘱状交付式

### 4/27

○山口県から「選手団サポートボランティア養成協力校」の委嘱状が交付  
平成23年に開催される「おいでませ!山口大会」(全国障害者スポーツ大会)に本学から学生がボランティアとして参加することに伴い、4月27日に山口県から「選手団サポートボランティア養成協力校」の委嘱状が交付されました。

### 4/28

○フィンランド・ラップランド大学との学術交流協定を締結  
本学から江里学長を団長とする訪問団が、フィンランド・ラップランド大学に赴き、同大学との間において学術交流協定を締結しました。



学術交流協定を締結する両学長



学生表彰の1コマ

### 5/15

○山口県立大学開学記念行事  
開学69年を記念し、本学の開学を祝うとともに「学生の主張」と題し、公募で集まった個人やグループ計4組が、「大学に新たな輝きを!」をテーマに、将来に向けた本学のあり方について創造的な意見を発表しました。名誉教授の称号授与式や学生表彰もありました。

### 5/21

#### ○第3回三大学合同FD・SD研修会

3回目の研修会では、東京理科大学野田事務部長赤上好氏を山口東京理科大学へ招き、講演していただきました。この講演の様子は、テレビ会議システムを通して、山口県立大学、山口学芸大学に中継されました。大学の教員や職員の能力向上を図るためのFD(Faculty Development)・SD(Staff Development)研修会を三大学が合同で行うことで、相互の特色を生かした、より発展的な研修会をこれからも展開していきます。



中継の様子



赤上好氏

### 6/5

○水無月祭  
本年も学生による実行委員会主催の「水無月祭」が開催され、伝統の騎馬戦をはじめ、各サークル等によるステージ発表や模擬店などで、例年に負けない盛り上がりを見せました。



午前(体育)の部での伝統の騎馬戦



留学生の日本文化体験の1コマ

### 6/26 ~ 7/17

#### ○グローバル学生交流

本学と学術交流協定を締結している曲阜師範大学(中国)と慶南大学校(韓国)から各10人の学生を迎え、約3週間にわたって、学内外の様々な場所で、本学学生や地域住民の方々との交流が行われる本事業も、今回で11回目となりました。

### 6/29

#### ○社会福祉原論公開授業「世界一幸せ度の高い国~デンマークの教育と福祉~」開催

デンマークから3人の講師の方々を招き、公開授業が行われました。「世界一幸せ度の高い国~デンマークの教育と福祉~」というテーマで、生活大国といわれるデンマークでは、幼いときから「自己実現にむけて、自己責任で、楽しく学習すること」を大切に育てられている様子が報告されました。



公開授業の1コマ



参加・体験型の学科紹介の1コマ

### 7/18

#### ○オープンキャンパス

高校生や保護者を対象に本学のキャンパスを開放し、入学試験や学部・学科の概要説明、模擬授業、キャンパスツアー等を実施しました。大学生生活相談会や、参加・体験型の学科紹介、サークル活動のステージも催されました。

### 8/6

#### ○本学出身教員との懇談会開催

教育現場のニーズを把握し、本学の教育の充実に役立てるため、本学出身教員との懇談会を開催しました。出席者の方からは、本学で学ばれた体験や現在の動向などを踏まえ、さまざまな助言をいただきました。



和やかな懇談会

### 8/9 ~ 10

#### ○高校生対象夏季公開講座

県内の高校生を対象に、本学での授業体験を通して大学で学ぶことの意義や今後の進路について考えを深めてもらうため開催しています。今年度は山口東京理科大学及び山口学芸大学とも連携した資料展示コーナーの設置や山口東京理科大学の教員による南極探検についての講演を設けるなど、大学間の連携を活かしたユニークで魅力的な取組を実施しました。また、一部の講義・講演については、動画配信サービスUstream を通して、全世界に向けて配信されました。



大学生と高校生の意見交換

### 8/18

#### ○県評価委員会の業務実績評価結果

平成21年度における法人の業務の実績について、文部科学省補助金等を活用した教育プロジェクトの着実な推進、国家試験合格率や就職決定率の目標達成、ボランティア窓口の設置運営や国際交流機会の拡大など「中期計画は、全体として概ね順調に進捗している」との評価を得ました。なお、キャンパス移転の検討を積極的に進めることを期待するとの見解があわせて示されました。



入学式後の記念撮影

### 8/20

#### ○看護研修センター入学式

地域医療における看護ケアの質の向上に貢献するため昨年4月1日に本学に設置された看護研修センターで、感染管理認定看護師教育課程の第2期生の入学式が行われました。



## ラップランド大学特集 ~ラップランド大学と学術交流協定を締結~

本学では、「国際化への対応」を教育理念の一つに挙げ、「地域と世界をつなぐ」役割を果たすため、さまざまな国際交流活動を展開しています。言語の習得や異文化の理解には、実際に現地ですべての体験も重要であることから、6カ国・7大学と学術交流協定を締結し、海外で外国語を学び、異文化を体験するため、交換留学、海外語学・文化研修、グローバル学生交流事業等を実施しています。今回は、その中から、本年4月28日に新たに学術交流協定をむすんだフィンランドのラップランド大学をご紹介します。

### Finland ~フィンランド・ラップランド地方について~



ラップランドの大自然

フィンランド共和国(通称:フィンランド)は北欧諸国の一つであり、西はスウェーデン、北はノルウェー、東はロシアと隣接しています。首都はヘルシンキ。公用語はフィンランド語とスウェーデン語。

夏には太陽が沈まず、冬には太陽が昇らない時期のある地域は北極圏と呼ばれ、フィンランド最大の州であり、最も北に位置するラップランド州の大部分はこれに該当します。厳しい自然だからこそ生まれる美しい季節の移り変わりを楽しむことができ、オーロラも魅力の一つです。

### ~ラップランド大学について~ University of Lapland

フィンランド国立ラップランド大学は、首都ヘルシンキから北へ835kmの北極圏に近い街、ラップランド州都のロバニエミ市にあります。サンタクローズ村、オーロラ、ウィンタースポーツ、極北ラリー、デザイン、建築などで有名な街で、クリスマスシーズンには世界中からの観光客でいっぱいになります。

ラップランド大学は1979年に創立。アート&デザイン学部、教育学部、法学部、社会科学部があり、学部生4,300人、大学院生500人、海外からの学部・院生173人、交換留学生215人が学んでいます。

北極圏における芸術・文化・環境、持続性ある開発、ツーリズム、社会福祉、教育学、情報伝達技術、サミ人(先住民族)の研究などを教育・研究の特長としています。

学校の周囲には美しい川、白樺の木々などの自然が広がり、夏のフィンランドと冬のフィンランドでは全く異なる景色を楽しむことができます。



ラップランド大学正面玄関前



大学内のカフェでくつろぐ学生

附属図書館

アート・デザイン学部棟の中にある食堂

### ラップランド大学学長からのメッセージ

マウリ ウラ・コトラ  
Mauri Yla-Kotola 学長



本年、私自身、山口の美しい街や山口県立大学を訪問いたします。私は今まで山口から戻った教授や学生たちが熱意を持って帰ってくるのをずっと見て参りました。私も今回の訪問によって、より深い理解が得られることを楽しみにしております。また、私の熱意が県立大学との更なる協力関係構築に向けての強い決意に変わっていくと確信しております。

#### 山口県立大学の友人へ

ラップランド大学は、EUの中で最北端に位置する大学で、この立地環境が現在の発展に大きく寄与しました。我々の戦略的目的は、北極圏の問題などを世界に発信できる優れた中心地となることです。学生の募集地域として、はじめはフィンランドのラップランド地域だけでしたが、今では国全体に広がり、また国際的の大学にまでなってきました。北へ行こう！世界へ出よう！をモットーに、国際化を強調して行きたいと思っております。我々は世界で活躍できる学生を育てるための教育をしております。そのため、国際交流や国際友好は、我々にとって不可欠な活動であると考えております。

山口県立大学との協力関係は非常に有益なものになっており、称えるべき相

違いや多様性を有し、それが直接、教育や研究の質の向上につながっていることは明白な事実であります。また、教員交流で県立大学より教授の方々に来ていただき、アート&デザイン学部や社会科学部等において、日本文化や日本のデザイン、また日本の国自体についての理解を深めるために大変寄与していただきました。私どもの研究者が、県立大学を訪問した際も、学内で講義をさせていただきました。同様に相互の学生の交換留学も活発に行っております。また、我々の協力関係が主導で、地域レベルの交流も数カ月前から始まっています。我々は全く異なる教育施設であり、地理的にも極端に違う地域に存在するという事が我々の協力関係を築くのに大きく貢献しております。

### ラップランド訪問記

山口県立大学  
ロバート シャルコフ  
Robert Schalkoff 国際化推進室長

4月下旬に学術交流協定を締結するため、ラップランド大学(以下ラ大学)を訪れました。2回目の訪問ですが、前回とは随分印象が違いました。1回目は昨年の秋で、午前11時頃にならないと太陽が昇らず、午後3時すぎには沈み始めていました。雪が積もり、霧もかかり少し暗い印象を受けました。しかし、今回は午前5時に太陽が昇り、午後10時ごろまで沈まないため、雪が積もり氷点下だったにも関わらず、明るさに溢れ、何とも言えない

穏やかな印象を受けました。この中で、ラ大学の学長をはじめ、教職員の方々との実りのある話ができて、ラ大学のファンになりました。ラ大学は今年の元日より法人化されたばかりですが、ヨーロッパの中で魅力ある大学づくりを進めており、とても生き生きとしたエネルギーを感じました。各学部のカリキュラムや施設が充実しており、本学から交換留学生として派遣していた二人の国際文化学科の学生をとてもうらやましく思いました。今年度から教員交流が開始され、またデザインに関する共同研究も引き続き展開されるなど、両大学の交流が一層深まり、益々、ラ大学の魅力を感じる機会が増えることでしょう。

追伸：ラ大学から車で約20分北の方に進むと木造の大きな建物を中心とした小さな村があります。これは本物のサンタさんの正式な事務所、郵便局などの施設となっています。いつでもアボナしてサンタさんとの面会ができ、トナカイと接することができ、大人にとってもとても不思議な場所です。



サンタクローズ村

### 今後の学術交流

- 10月中旬：ラップランド大学に本学の国際文化学部吉本秀子 准教授を派遣。現地で「日本のマスメディアと文化」を講義。
- 12月中旬：ラップランド大学訪問団の受け入れ。コトラ学長による公開講座の実施。
- 12月中旬：ラップランド大学ヤクラ講師による異文化間コミュニケーションやフィンランド文化の入門講座を本学において実施。
- 12月13日：山口市民会館にて本学国際文化学部とラップランド大学アート・デザイン学部の共同研究グループによる研究発表会開催。



協定を締結したばかりの両学長



## 地域の小学生と過ごした夏休み

本学では、学生支援部内に学生活動支援センターを設置し、課外活動においても本学学生の地域活動を奨励し、人と関わる力を育むための支援を行っています。

その中から夏季休業中のキャンパスが、地域の小学生との交流で賑わった3日間の取り組みを紹介します。

大学生が教える

### 小学生のための なつやすみの宿題楽しく学ぼう会

このイベントは、宿題サポート隊(本学学生ボランティア)18名が先生となり、地域の小学生40名を対象に開催しました。

宿題をサポートするだけでなく、専門性を活かしたレクリエーション等、様々なプログラムを実施しました。今年度で3回目を迎えるこの取り組みは、本学の学生にとって、多世代交流や、夢の実現に向けた経験を積む機会として定着しています。



スライムづくり



お勉強タイム



聴診器づくり



中国語についての勉強



かえりの会での修了証授与

大学生が教える

### 小学生のための なつやすみの宿題楽しく学ぼう会 スケジュール表

平成22年8月18日～20日 桜翔館他

- | 時刻       | 項目   |
|----------|--|
| 8:30▶▶▶  | 宿題サポート隊(本学学生)集合  |
| 9:00▶▶▶  | 小学生集合<br>あさの会<br>・開会の挨拶、スケジュールと約束の確認<br>お勉強タイム(40分間程度)<br>大学生のサポートのもと、各自の宿題に取り組む   |
| 10:00▶▶  | お楽しみレクリエーション(40分間程度)<br>18日 スライムをつくろう(栄養学科)<br>19日 体の言、聞こえるかな?<br>～聴診器をつくろう～(看護学科)<br>20日 描いて知ろう!中国<br>虹☆HONG☆MUJIGE(国際文化学科)<br>●虹☆HONG☆MUJIGE(ニジホムジグ)とは、YPU<br>ドリームアドベンチャープロジェクトの採択を受け、<br>日本・中国・韓国の架け橋となるために活動している<br>グループです。<br>集合写真撮影(18日、19日のみ) |
| 11:00▶▶▶ | お勉強タイム(40分間程度)<br>かえりの会(大学生がグループで1日ずつ担当)<br>・修了証、写真を配布(参加最終日)<br>・開会の挨拶  |
| 12:00▶▶▶ | 小学生解散<br>宿題サポート隊(本学学生)解散   |

※スライムとは、洗濯のり、ホウ砂溶液で作る粘土のようなおもちゃ

## Kids' English ～子どもに英語や世界に対する興味・関心を～

『Kids' English』は、本学学生有志により結成され、本学のYPUドリームアドベンチャープロジェクトの採択を受け、県、市、地域等のご協力のもと、地域の小学生を対象に英語を楽しむ機会を提供しています。

※YPUドリームアドベンチャープロジェクトとは、大学生生活をさらに楽しく豊かにするために、学生(個人やグループ)が自主的に企画・運営する独創的で魅力的なプロジェクトに対して、大学が費用を補助することで夢の実現を支援する事業です。

『Kids' English』は、英語が好き!子どもが好き!という学生が集まり、英語遊びを通して小学生に英語や世界に対する興味・関心を持ってもらおうと、平成22年春からスタートした活動です。

これまで、県、市、地域、大学等、たくさんの方にご協力をいただき、大殿小学校、小郡地域交流センター、井関にこここクラブ等で活動し、延べ約300名の小学生たちと、ゲームを通して、やさしいフレーズやよく使われる単語を話してみる等、楽しい英語の時間を過ごしました。

『なつやすみのKids' English』は、『宿題学ぼう会』終了後の午後に、大学施設を利用して開催した初めての連日企画で、最終日には、保護者の皆さんを招待し、ミニミニ発表を開催し、3日間の成果を披露しました。

計画どおりに進まなかったり、元気な子どもの勢いに圧倒されたりと大変なこともありました。しかし、発表会での子どもたちの真剣かつ楽しそうな表情や、「せんせ、せんせ!」と慕ってくれる姿を見て、小学校での外国語教育に対してますます興味が沸き、これからの活動に対するモチベーションが高まりました。

今後、さらにたくさんの小学生に参加してもらえよう、これまでの経験と反省を活かし、小学校や地域交流センターでの活動、クリスマス・パーティー等の楽しい企画を充実させ、「英語ざらい」の回避・地域貢献・自己研鑽につながるように努めたいと考えています。

(YPU Kids' Englishのプログラマー→<http://ypukidsenglish.soreccha.jp/>)

Kids' Englishメンバー 国際文化学部 国際文化学科 3年 小野 奈緒美



小学校や地域での活動の様子

### 学生ボランティアの声



宿題サポート隊  
看護栄養学部 看護学科3年  
白土 淑子

私が「宿題学ぼう会」に参加させていただくのは、今年で2回目になります。今年も、子どもたちからたくさんのお礼をもらいました。去年出会った子どもたちが1年大きくなってまた出会うことも出来、「先生のこと覚えてちょう?」と聞くと「うん。」と頷いてくれたり、「覚えてちょう。」と元気いっぱいに答えてくれた子もいて、とても嬉しかったです。

小学生と交流する機会は、大学生の私からするとなかなかないものです。ですので、この会に参加することは、たくさんのお礼をもらいながら楽しい時間を過ごすことが出来、将来養護教諭を目指している私にとって、子どもたちが何を考え、どんなことをしているのか、1年生から6年生までの発達段階に応じた成長の仕方について学ぶことが出来る貴重な機会となっています。会では、勉強ももちろんしますが、お楽しみレクリエーションタイムでスライムを作ったり、外で鬼ごっこやフリスビー等をする時間もあって、私にとっても、思い出に残る会となりました。「また、来年会おうね。」と言ってくれた子どもたちがどのように成長するのも楽しみです。また、来年も参加したいと思っています。

### 参加した小学生の感想

- ※わたしは、勉強するのがきらいで、いつも夏休みになると最後の日まで、宿題をやらなかったけど、去年からここに来て、宿題が早く終わるようになりました。大学生のみなさん、ありがとうございました。(小5 女子)
- ※3日間で20.5ページやったので、少なくなったのでよかった。部屋がすずしく、楽しかった。(小5 男子)
- ※べんきょうとかえいごしたりして、たのしかったよ。おとといは、スライムづくりがたのしかった。(小1 女子)
- ※案外楽しかった。感想文も終わったので、安心しました。来年も来たいけど、中学生だから行けないのでざんねんです。(小6 男子)
- ※私は、この大学の勉強会に来て、本当に良かったと思いました。勉強も進みました。なにより、友達と勉強が出来る、大学生の先生がやさしい、ということがうれしかったです。(小5 女子)



# Welcome to LAB

## 研究室紹介



米田、センター大学での講義風景

看護栄養学部 看護学科  
老年看護学研究室  
教授 田中 マキ子

私は老年看護学を担当しています。褥瘡(いわずゆる、床ずれ)ケアの方法、ポジショニング、転倒予防のためのセンサー開発等、少し手を広げ過ぎていくような感覚がありますが、興味はわくという手を出してしまう悪い癖があります。大学院の担当になってからは、百歳高齢者の研究にも着手しています。昨今の“消えた高齢者”のニュースは、なんともし寂しい思いがしてなりません。

多くの家族は、自宅で一生懸命高齢者のお世話をされているからです。私が老年看護学を専門にしたのは、“おじいちゃん”だった私の生

い立ちと関係が深かったのかもしれません。おじいちゃんは、私をとてても可愛がってくれました。幼少期、私は髪が長く、その長い髪をきれいにまとめてくれるのがおじいちゃんの朝の日課でした。とても器用な人でしたので、私の髪型はいつも周りの人から褒められました。このように育った私にとって、高齢者は身近な存在であったし、尊敬すべき、人生の知恵者でした。

こうした思いは、百歳研究を通じて一層強く自覚されるようになりました。お元気で、家族に支えられながら暮らしておられる百歳高齢

者の生き様から、多くの事を学びます。楽しさ・苦しさ・寂しさ等々、長いながい人生にあって様々を体験された高齢者からは、人間が避けては通ることができない「生老病死」という課題に、どう向き合うかを考えさせられます。生き様そのものが「今、この時」を紡ぐということを悟られます。

このように研究活動を通じて学び・体験していることを、核家族化が進む現在にあって、高齢者と関わることの少ない若者世代へ理解されるよう、様々な工夫を図ることが、私の役目であり、私の研究の成果として問われることとなるでしょう。今の課題は、自身の加齢現象も自覚される中、「どのようにして上手に歳を重ねるか!」です。美しく・自分らしく・老いる=生きることを考えているのが私の研究室です。お時間があるとき、是非研究室をのぞいてみてください。

国際文化学部 国際文化学科  
中国社会論研究室  
講師 張 玉玲

私の専門分野は、海外に移住した中国系の人々、つまり華人に関する文化人類学的研究です。「自分」(西洋人)と違うという「他者」(「野蛮人」)への出会いから始まったとされる文化人類学は、今は異文化間の相互作用を幅広く取り扱う学問となりましたが、先進国が開発途上国を、マジョリティがマイノリティを研究するというように、研究対象は何らかの「弱者」であることが多いのです。華人もこれまで母国中国と移住国との国際関係の如何によって、抑圧されたり排除されてきた経緯

がありました。しかし、「弱者」だからと言ってその受動的一面をひたすらに強調すると、全体像が把握できなくなったり、事実とまったく異なる研究結果になりかねません。物事を様々な角度から見ることで、そして相手の視点に立ち考えなおすことが必要なのです。

同じような視点から、経済成長に伴う現代中国の社会的文化的変動についての研究にも取り組んでおり、ゼミではこれを主な内容としています。中国に関する様々な話題がメディアによって取り上げられているだけに、学生の中国への関心も高まっています。授業では、日本との比較という

視点も入れるように指導しており、学生は、中国を勉強すると同時に日本も見直すことによって、より柔軟かつ多角的視点から中国と日本を捉える能力を高めてきました。今後、留学プログラムに加えて、学生が実際に中国と接する機会を増やして、様々な問題に対処する力を身につけてもらうことを期待しています。



# Watch Lecture 講義紹介

## 食品機能学実験

看護栄養学部 栄養学科  
教授 島田 和子

食品機能学実験は栄養学科2年生を対象に開講されている科目です。学生は1年次の講義で学んだ食品に関する内容について、具体的に実験を行うことで知識を深めます。実験科目は各種器具・機器類を使って実験を行うことはもちろんですが、実験終了後にレポートを書くことも重要なことです。学生達が本や文献を参考にしながら実験結果を解釈し、論理的で分かりやすい実験レポートが作成できるよう努めています。

実験は、以下に示すように、主に食品の嗜好面(味、色、香り、物性)と機能

面(抗酸化性)に焦点をあてて実施しています。初回の授業で味噌製造のために原料を仕込み、その後3カ月間、還元糖、遊離アミノ酸および有機酸の各成分量の増加程度と着色度を測定し、味噌が出来る過程を科学的に調べます。食品の主な色素成分の特徴を理解するために、ナス皮を試料としてアントシアニンの変色と安定化およびハム・ベーコンに用いられている肉色素ミオグロビンの亜硝酸塩による色調の安定化について実験します。また、アントシアニン色素の抗酸化能を測定し、その抗酸化のメカニズムを理解します。その他、褐変反応、食品の物性測定など、食生活で身近に認められる様々な現象についての実験を行います。これらの実験を通じて、調理や加工操作が食品の嗜好性を高める理由、食品に含まれる様々な機能性成分など

について、学生達が深い関心を持ち主体的に学習を続けることを期待しています。



# Consultation 相談の森

皆さんから寄せられたさまざまなご質問に、専門領域の本学の教職員がお答えします。

**Q** 最近、よく「企画プロデュース」という言葉を耳にするのですが、具体的には何をしていますのでしょうか？  
山口県立大学には専門のコースがあると聞きましたので、詳しく教えてください。[17歳 女性]

**A** プロデュースという言葉は辞書で調べると、「生産する」とか「制作する」という意味になります。企画プロデュースとは、「モノ」「コト」「イミ」を企画し、デザインを通して創出するという事です。自身の専門分野であるプロダクトデザインで紹介すると、山口県は日本有数の竹林面積を有しています。そして竹は森林の生態系に悪影響を与えて環境問題となっています。一方で地域の活性化が叫ばれています。そこで、竹を素材とした生活用品をデザインし、地域から世界に向けて新しい暮らしを演出する文化を提案するという事は、企画プロデュースの一つの例となります。

このように、グローバルな視野にたち、地域の資源を掘り起こし、社会的な様々な問題も解決すべくテーマを企画し、デザインを展開して成果を発信するというのが「企画プロデュース」という領域です。山口県立大学国際文化学部文化創造学科には、主としてデザインや企画・提案に関する科目群の「企画プロデュース系」と、主として日本の言葉・文学・歴史・芸能に関する科目群の「日本文化系」があり、企画プロデュースについての専門的な知識やスキル等を学ぶカリキュラムが用意されています。時を経るごとに、麗しくなり、愛おしくなる、また新鮮な魅力を保持するというような、未来の豊かな生活のための文化を創造することに興味がある学生の国際文化学部文化創造学科へのチャレンジを期待しています。



国際文化学部 文化創造学科  
学科長 井生 文隆



# Student's Interview 学生紹介

## いま、キミは輝いて

### 山口国体にむけて

看護栄養学部  
栄養学科1年  
重永 織江さん  
[スポーツライミング部]



クライミング競技にはリード競技とボルダリング競技の2つがあります。リード競技は15mほどある壁を命綱をつけて登り、制限時間内にどこまで登ることができるか、その高さを競います。ボルダリング競技は4~5mほどの低い壁に課題がいくつか用意されており、1番上まで登りきった課題の本数や、取ったボーナスの数などで競います。

私は高校からクライミングを始め、練習を重ねてきました。4月に行われた県大会では県代表に選ばれ、6月に行われた国体予選中国ブロックに出場しました。5県中、千葉国体に出場できるのは1県だけという厳しい戦いでしたが、千葉国体への出場を決めることができ、とてもほっとしました。

大学からは国体にもむけて、様々な支援をしていただいています。筋力トレーニングメニューの作成、日頃の食事に関する栄養指導、遠征にかかる費用の負担、クライミング競技に必要な道具の支給など、どれも競技力の向上には欠かせないものばかりです。

来年はいよいよ山口国体です。成年となるとクライミング競技を長くやってい

る選手ばかりで強い選手が多いので、厳しい戦いになります。開催県ということで大きな結果を求められると思いますが、その期待に応えられるようにこれからさらに努力していきたいと思っています。



練習をする重永さん

### 繋がりに生まれるありがとう

国際文化学部  
国際文化学科2年  
高家 あゆみさん  
[YPU TFT PROJECT 代表]



私は入学当初、とくに目標もなく、何かしたいと思っていても、結局はぼんやりと過ごすという日々を繰り返していました。しかしYPU TFT PROJECTの活動を通して、そんな私の大学生活は変化しました。

TFT (TABLE FOR TWO) とは、先進国と途上国の間にある、飢餓やメタリックシンドロームなどの大きな食の不均衡をなくすことを目的とした日本発の社会貢献運動です。活動は、私たち先進国の人々が、TFTのガイドラインを満たすヘルシーメニューを一食購入し、そ

の料金のうち20円分がTFT事務局に送られ、途上国の子どもたちの給食一食になるといものです。私たちが健康になると同時に、違う誰かも健康になることができるのです。

私がYPU TFT PROJECTに参加したきっかけは、開学記念日の学生の主張で、先輩方がその活動の発表をしている姿がとても輝いていて、私も先輩たちのように輝いてみたい!と思ったことです。今年度は私たちの代が中心となって、開学記念日の学生の主張に出場し、優勝することができて、とてもうれしく思います。

活動に参加することで、他大学の方々や地域の方々など知り合うことができ、そのつながりによって知識や自分自身が深まるきっかけになりました。一番感じたことは、この活動は感謝もしきれないほど、沢山の人が支えられているということです。今は代表として、「食」という幸せを通して、沢山の人が「笑顔」になることを目標にしています。活動できることは当たり前ではなく、有り難いことだと感謝することを忘れず、これからも取り組んでいきたいと考えています。



前列左から2番目が高家さん

## サークル紹介

うになるには努力が必要ですが、お互いが交流を深めるうちに信頼関係が生まれ、「いまじん。」が彼らの地域における居場所のひとつとなればとても嬉しいです。

活動を進めるにあたって、私たちは、彼ら自身が主体となって様々なことを選択・実行するように心がけてサポートしています。そうすることで、活動が成功した際の達成感や充実感を、また時には失敗から学んでいくことの大切さを感じていただけると考えるからです。また、



彼らが今まで体験したことのない余暇の過ごし方を学生から提案することで、彼らの世界を広げ、余暇生活をより充実することにお役に立てるのではないかと思います。

今後も互いに尊重・成長しあいながら、彼らと共に余暇の時間を楽しく過ごしていきたいと思っています。

# Exchange Program 交換留学

山口県立大学は中国・韓国・アメリカ・カナダ・スペイン・フィンランドの7大学と学生や教員の交流、地域社会の国際化を進めています。今回は韓国の馬山市にある慶南大学校との交換留学生にスポットをあてます。

- 1 留学先大学の印象
- 2 ホストファミリーとの1番の思い出/寮生活の1番の思い出
- 3 留学中に訪れたお気に入りの場所とその理由
- 4 留学先大学の授業の印象
- 5 留学中に参加した課外活動と思い出

### ●●● 慶南大学校へ ●●●

国際文化学部国際文化学科4年

青柳 満人さん



- 1 第一印象は、とにかく「でかい!」と思いました。一万を超える大学なのでとても大きく、そのため、たくさんの研修や教養プログラムがありました。図書館・銀行・売店・スポーツ設備等も充実しています。留学生は少なく60人程でしたので、韓国の方と多く交流することができ、留学生同士の仲が良かったです。
- 2 慶南大学の寮では基本的に二人ひと組で一部屋に住みます。私は神奈川大学から来た交換留学生と同じ部屋になり、夜遅くまで留学生活について話したり、一緒に夜食をつまんだりしていました。韓国の友達が部屋に来ることもあり、その時は日本と韓国との差や文化について話をしました。
- 3 お気に入りは一か月一人暮らしをした場所、ソウルです。自分の力で生活をし、全く新しい人間関係を作っていくのが楽しかったです。私は、日韓交流施設を利用していたので貿易会社勤務の人や、漫画家、日本留学する美大生など様々な人に出会うことができ、一か月という限定された時間を自由に「作っていく」感覚がとても面白かったです。
- 4 一学期はほとんどが留学生用の授業で、先生はパワフルな人が多く、熱心に教えてくれました。人数の都合上、ほとんどが「聞く」授業でしたが、楽しく授業ができました。二学期からは哲学や文化人類学など難しいものにも挑戦し、苦労もしましたが、日本ではない視点から学べ、はっとさせられることも多かったです。
- 5 日本語教師のボランティア活動です。家庭や学校でのトラブルで家にいられなくなった子ども達が住む施設にいる18歳の女の子に1対1で日本語を教えました。教材を探したり、予習をしたり、たまに入れる小話を考えたり等、出来る限りの努力をし、良い経験となりました。

### ●●● 山口県立大学へ ●●●

慶南大学校日本語教育学科4年

安 ジンソルさん



- 1 少数精鋭の上品で小規模な県立大学は、学生たちがまるで家族のようで、厚い人情を感じました。実力のある先生方や充実した教育プログラムという特別な成長環境があり、学校の学生支援は学生たちが自ら成長する強い原動力になっている、県立大学はこれからも無限な発展をするのではないかと思います。
- 2 ステイ先は本当の家族のように私を受け入れて下さり、日本がもう一つの母国に感じられました。ステイ先のお母さんは手打ちそばがとても上手で、私もそばを打ってみたいのが一番の思い出です。日本の料理を、自分で作って食べるという素晴らしい経験をさせてくれた日本のお母さんにとっても感謝します。
- 3 山口と言えばやはり秋吉台ではないでしょうか。私が生まれ育った韓国では見られない広闊なカルスト大地を初めて見た瞬間の感激をいまだに忘れられません。その広々とした平野のしたに広がる秋芳洞は日本だけではなく、地球の歴史を感じさせる魅力があると思います。
- 4 茶道の授業は日本文化を一番肌で感じた授業でした。お茶をたてるという動作だけではなく、茶道の由来や歴史、精神面まで学ぶことが出来、毎週いろんな日本のおかしを食べられた上、着物を着る経験もできて嬉しかったです。授業で覚えた「一期一会」という言葉は今でも胸の中で響いています。
- 5 音楽が大好きな私は街のライブハウスの音楽好きな人々が集まっているクラブに毎週参加して、作詞作曲活動などを行いました。年齢、職場、性別を問わず様々な人がおり、音楽を楽しむだけでなく、たくさんのお話が出来て勉強になりました。最後には自分のライブも出来、たいへん嬉しかったです。

# Circle Report

## いまじん。

「いまじん。」は、山口市の「こひつじの会」という知的障がいのある青年たちのグループの余暇活動を支援する福祉サークルです。

学生と青年たちが合同ミーティングを行い、活動の内容を一緒に企画・運営します。彼らの希望をもとに、スポーツ大会をしたり、日帰り旅行をしたり、色々な余暇プログラムと一緒に楽しんでいます。スムーズな意思の疎通ができるよ

## 慶南大学校

韓国・馬山市

1964年に設立された伝統ある大学で、美しい南の海に面した慶尚南道の馬山に位置しています。約2万人の学生が学んでいる韓国有数の教育・研究機関です。

文化学部・自然科学部・師範学部・経営学部・法政学部・工科学部の6つの専門学部と教養学部から構成されています。メインキャンパスは桜の美しい馬山市にあり、首都ソウルにも極東問題研究所を有しています。海外の大学との交流も盛んで、15カ国・地域の44大学と提携しており、日本とは本学以外にも6大学と提携しています。特定の学部を超えて、他学部の授業科目を選択できます。図書館は大きく便利で、寮や食堂も充実しているので、生活を楽しみながら学習ができます。クラブ活動も盛んです。



山口県立大学の「韓国語学・文化研修」は、8月初旬の前期試験終了後から3週間にわたり韓国語の授業、テコンドーや伝統作法など韓国文化について研修します。慶南大学校のプログラムは、「グローバルハンマ」と呼ばれ、慶南大学校の姉妹大学であるロシア、フィリピン、台湾、中国、日本の他大学の国や地域の学生さんたちと一緒に国際色あふれた環境の中で多彩な研修を行います。研修期間中は寮に滞在し、週末には小旅行に出かけます。研修に参加することにより、科目の単位(2単位)になります。

## Topics

### ■平成22年10月1日までの新規採用者



看護研修センター  
主任教員

やま なか なお こ  
山中 直子

8月1日採用



看護研修センター  
専任教員

しの はら ひさ え  
篠原 久恵

8月1日採用



看護栄養学部 栄養学科  
准教授

くさ ま かおる  
草間 かおる

7月1日採用



教育研究推進室  
特任職員

うだ がわ みつる  
宇田川 暢

7月1日採用

## Campus Schedule

10  
OCT

後期授業開始

11  
NOV

華月祭、推薦選抜試験、社会人特別選抜試験

12  
DEC

大学院入学試験、冬季休業

1  
JAN

授業再開、大学入試センター試験

2  
FEB

後期末試験、個別学力検査(前期日程)、外国留学生特別選抜試験

3  
MAR

個別学力検査(後期日程)、卒業式、春季休業

### ■本学への寄付(H22年度上半期分)H22.9.15現在

●昭和31年卒被服科クラス会	5,500円
●山口県立大学教育後援会	6,000,000円
●(株)伊藤園中央研究所	800,000円
ほか4件	240,000円
計7件	合計 7,045,500円



ありがとうございました。

### ■編集後記

平成22年9月秋分の日 木村 泰則(経営企画部長)

今年の夏は、連日猛暑日で、残暑もとても厳しい日々が続きました。しかし、8月のある日、そんな暑さを忘れさせてくれるような、子どもたちの笑い声がキャンパスに響き渡りました。今回の特集企画にあります、「小学生のためのなつやすみの宿題楽しく学ぼう会」に参加した地元小学生たちの声です。小学生の元気な姿を見て、暑くても外で遊び、日が暮れても海や広場で遊んだ少年時代を思い出しました。

今回は、国際交流の視点で姉妹大学であるラップランド大学も特集しています。

本学の国際交流事業を通して学んだ学生が、地元の小学生と交流し、その子どもたちが世界に目を向けていく...そのような取り組みをこれからも進め、本学が地域と世界をつなぐ大学としての役割を果たしていくことができるよう努めてまいります。

皆さまからの広報誌へのご意見、ご感想をお待ちしております。



公立大学法人  
山口県立大学  
Yamaguchi Prefectural University

〒753-8502 山口県山口市桜島3丁目2番1号  
Tel.083-928-0211 Fax.083-928-2251  
<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/>  
※Web動画配信も行っています。



昭和52年6月より行われている伝統行事水無月祭。昼のスポーツイベント、夜にはサークル等による模擬店や活動披露が行われます。今年も天気に恵まれ、午前・午後の部ともに活気あふれる大学祭となりました。

表紙の題字は、江里理事長(学長)の直筆です。